

# 季刊 湘南自然誌

2021年 春の記録号 通巻21号

Vol.21

Shonan Nature Magazine  
2021 Spring Report



小枝をいっぱい  
集めなくちゃ...

## Contents

P1 ~ 四季のコラム

P3 ~ 特集1「野鳥観察のヒント」

P6 ~ 特集2「身近な野鳥のくらし」

P9 ~ 湘南発 みんなでつくる生きもの図鑑

P19 平岡幼稚園 ActionReport

P21 教育コラム

P22 おえかきひろば

P23 平岡幼稚園の紹介 他

巣材を集めるキジバト  
(県立花菜ガーデンにて)

### 特集2

飯塚利一監修

身近な  
野鳥のくらし

ツバメ・スズメ・カラス・ハトなど

### 特集1

インタビュー

野鳥観察の  
ヒント

まずは身近な鳥から



(公財)日本野鳥の会 元事務局長  
飯塚 利一 先生



「かえるをつかまえたよ」 清水悠誠 (5才)

自然はみんなのワンダーランド！

# 四季のコラム

2021 春

園児と共に自然に触れ合う中から生まれた自然にまつわるコラムです

ほった よしのすけ  
堀田 佳之介



平岡幼稚園 園長  
1級こども環境管理士  
2級ビオトープ施工・計画管理士  
神奈川昆虫談話会会員  
ひらつか生物多様性推進協議会幹事

## 子どもたちのセンス・オブ・ワンダーを育むビオトープ

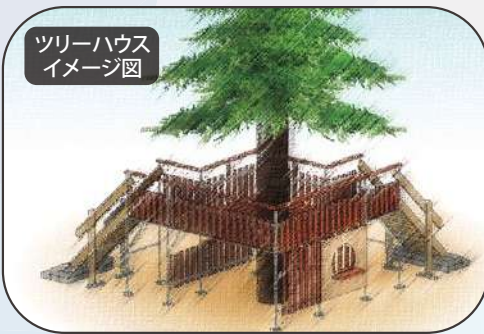
県内の私立幼稚園としては最大規模となる7,501㎡の園地を有する平岡幼稚園では、2009年度より園地の多くをビオトープ（生きものの棲み処）にして、園の周りに住む生きものを呼び込んでいます。周辺から集まった多くの生きものは、昆虫類だけでも現時点で400種を超えました。このビオトープは園児たちの日常の遊び場となっており、四季を通じて、さまざまな自然の不思議や面白さに出会うことができます。

これまでビオトープは定期的に管理作業をしていましたが、このところ散策通路などの傷みが目立っていましたので、これを機に大幅な改修に着手しました。子どもたちが探検しやすいように、台地斜面の散策路や水辺（池や小川）を整備したほか、地域の方から頂いた杉の丸太を配置した『丸太の広場』も作りました。今夏にはツリーハウスも設置予定です。これからも、子どもたちのセンス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見張る感性）を豊かに育む環境作りをしていきたいと思っています。



グラグラしているところを外したら、のぞき穴ができたよ！

芯が空洞になったムクノキの古木



ツリーハウスイメージ図



平岡の森のビオトープ



丸太の机で生きもの観察



生きものあふれる平岡ビオトープ

今期もたくさん生きものが見つかりました！（詳細は図鑑コーナーで）

※丸太を寄贈いただいた海老澤顕寿様、ありがとうございました。

## シジュウカラ巣箱&エサ台の続報

卒園製作の端材で作ったシジュウカラの巣箱とエサ台を、2021年2月下旬に平岡の森ビオトープに設置したことは前号のコラムで紹介しましたが、今回はその続報です。

エサ台は、4月までに何度かシジュウカラが訪れてくれたのですが、5月に入ってから全く来なくなってしまいました。(公財)日本野鳥の会元事務局長の飯塚利一さんに相談したところ、「エサ台は餌が少ない冬に設置するのがベスト」とのこと。エサ台に入れておいたヒマワリの種などは、冬場には好んで食べるそうですが、暖かい時期は主に虫を食べるようです。

同じく巣箱も設置時期が遅かったようで、「既に2月下旬には巣作りをする候補地を選び終わっている場合が多い」とのことでした。ただし、シーズンに2~3回繁殖するそうなので、継続して観察を続けていたところ、なんと!5月上旬に巣箱にシジュウカラのペアが来てくれました!

これで、みんなで子育ての様子を観察できると喜んでいましたが、どうやら下見に訪れたただけだったようで、今のところはまだ営巣は確認できていません。引き続き、園児たちと一緒に観察を続けていきたいと思います。



下見に訪れたシジュウカラのペア

卒園製作の端材で作った巣箱とエサ台



水浴びするために小川に降り立つシジュウカラ

平岡ビオトープには様々な鳥が水浴びに来ます→P8



平岡の森のエサ台

## 園内で確認された鳥類2種追加!

令和2年2月にバードテーブルとバードハウスを園内に設置したのを機に、鳥類の観察を続けています。前号の本コラムで紹介したように園内ではこれまで32種類\*の鳥が記録されていますが、その後に新たに2種(ヤマガラ、ガビチョウ)が確認されました。

ヤマガラは、湘南地域では丘陵地を中心に広く見られる鳥で、二宮町の鳥にも指定されています。

ガビチョウは、モノマネをする鳥として有名で、とても面白く可愛いのですが、愛玩・観賞用として輸入されたものが野生化して問題となっているアジア大陸原産の外来種です(特定外来生物)。本種が園内にも来てしまっていたことが判明しました。

その他にも、巣立ち雛や餌を運ぶ親鳥が確認されたことにより、園内でカワラヒワとスズメが営巣していたことも判明しました。次はどんな出会いがあるでしょうか。園児たちと一緒に観察を続けたいと思っています。

\*前号(Vol.20 P1)に「園内ではこれまで31種の鳥類が記録されていますが…」とありますが、ダイサギが抜けておりました。正しくは32種です。



ヤマガラ

今期に新たに確認された2種と繁殖が確認されたカワラヒワ



特定外来生物 ガビチョウ



カワラヒワの巣立ち雛

## まずは身近な鳥から

# 野鳥観察の ヒント



鳥は住宅地や公園、駅前にもたくさんいますが、その割に私たちは鳥のことをよく知りません。今回の特集では、日本野鳥の会元事務局長の飯塚利一先生に、身近な鳥を題材に、野鳥観察のヒントとなるようなお話をお伺いしました。

（編集部）

※ 特集に掲載した鳥の写真はすべて湘南地域で撮影されたものです。



（公財）日本野鳥の会元事務局長  
いつか としかず  
飯塚利一先生

イラスト・作画：富岡誠一

## まずは身近な鳥から

堀田佳之介（以下、堀田）> 鳥は昆虫のように捕って見てみるということができないので、子どもたちにとって鳥の観察というのはハードルが高いのかな？と思っているのですが、やはり双眼鏡や望遠レンズをうまく活用しないと難しいのでしょうか？

飯塚利一（以下、飯塚）> まずは肉眼で十分ですし、野鳥は声だけでも楽しめます。スズメがチュンチュン鳴くのはみなさんご存じでしょう？。でも耳を澄ましてよく聴くと、春先にはそれとは違う鳴き方（さえずり＝繁殖期特有の鳴き方）をしてるんです。

堀田> スズメのような身近な鳥でも新たな発見ができるのですね。

飯塚> スズメは、野鳥でありながら人間と微妙な距離感を保ちつつ暮らしている面白い鳥なんです。ビルの排気口や人家の屋根など人がいるところに巣を作るのに、人になつくことはない。でも人が住まなくなった場所からは離れていく。鳥は人間のことをよく見て暮らしてるんですよ。

堀田> カラスの仲間もすごく賢いことで知られてますし、よく観察したら面白そうですね。

飯塚> ハシブトガラスやハシボソガラスはクルミや貝を車に轆かせて割って食べるそうです。驚くべきことに、公園の水道の蛇口を開けて水を飲むという報告まであるんですよ。ただし、蛇口を閉めては行かないらしい（笑）。雪の積もった屋根でスキーのように滑って遊ぶのも観察されています。人間でいうと3歳4歳くらいの知能は持っている気がしますね。ちなみに、ニューヨークやロンドンにもカラスの仲間はいますが、大都市でゴミをあさるのは東京だけだそうです。適応の仕方に違いがあるのが面白いですね。

## エサ台や巣箱で野鳥を呼んでみよう！

堀田> 子どもたちに鳥の存在にも目を向けてもらいたいなと思ひまして、2月の終わりごろ園内にエサ台を設置してみたんです。ところがたまにシジュウカラが一瞬立ち寄るくらいでなかなか利用してくれませんね…。

## 〈飯塚利一先生 Profile〉

昭和29年、東京都板橋区生まれ。慶応大学法学部卒。大和市在住。公益財団法人日本野鳥の会元事務局長。

小学生のころから大の動物好きで、野毛山動物園に通いつつ、野鳥の観察を始める。大学時代には、相模川河口で神奈川県下初のズグロカモメを発見する。長年、日本野鳥の会事務局で働き、視覚障がい者向けの野鳥図鑑『さわる図鑑・鳥』を制作した他、ジュニア自然図鑑3『野鳥の観察』（実業之日本社）を監修する。

興味は鳥類に留まらず、毎年東北の金華山（鳥）にサルの観察に赴いている。現在は、自然体験教育研究会監事として、三浦半島などで子どもの自然教育の支援に取り組む他、バードカービングの公募団体「木の鳥グランプリ」の副代表も務める。

飯塚> 設置時期が少し遅かったですかね。エサ台は鳥が食べ物に飢えている厳寒期（1～2月）に設置するのが一番いいですよ。

堀田> エサ台は来期に期待ですね。ただ、エサ台を設置したおかげで、そばで水浴びをしていたり、昆虫の幼虫をつついていたりといった、今まで気にすることのなかった鳥の姿により注目するようになりました。また、鳴き声も注意して聴くようになりました。そのためか、今まで気付かなかったヒレンジャクやヤマガラ、ガビチョウなどの存在に気付くことができました。ちなみに、シジュウカラが営業してくれたらいいなと思って、園内に巣箱も設置したのですが、今のところ使ってくれている形跡はありませんね…これも少し遅かったのでしょうか？

飯塚> シジュウカラの巣箱は12月～1月に設置するのがおすすめですけど、4月～7月の間に2、3回繁殖するので、まだチャンスはありますよ。

【後日談：対談後の5月12日に、シジュウカラのペアが園内の巣箱に来ているのを目撃しました。（詳細はP2）】

## 人が野鳥の親になるのは難しい

堀田> 園内でカワラヒワの雛が歩いているのを見つけたのですが、まだ弱々しくうまく飛べそうにありませんでした。この段階で巣から出てくるのは成長の過程なのですよね？

飯塚> そういう雛を「巣立ち雛」と呼びます。自立への練習をしている最中で、もう少しでうまく飛べるようになります。親鳥が近くに来て「早くおいでおいで」って鳴いてることも多いんですよ。なので、かわいそうと保護してしまう人がいるのですが、見守るだけにしましょう。



堀田 > 人間が野鳥の親になるのは難しいのでしょうか？

飯塚 > ほとんどうまくいきませんね。巣立ちするかしなくかくらいに育ってれば、人間が給餌して育てることができるところもあるんですけど、付きっきりになりますし実際には難しい。昔イワツバメのヒナを育てる機会があったんですけど、その時はうまく育ちました。毎日毎日家の周りのありとあらゆる昆虫を捕まえて餌にしました。ただそれだけ手を掛けても、野に返す時はあっさりパーっと飛んで行って終わり…。「別れを惜しむとかなないのかよ！」と思いましたよ (笑)。それが野生ということなんですね。

### 羽に注目してみよう

堀田 > 子どもはよく鳥の羽を拾ってきたりしますが、そこから種類を推測してみたりするのも面白いですね。

飯塚 > そうですね。必ずしも専門家がなくても、今はネットで多くの情報を得られますし、図書館にも鳥の羽図鑑が大抵ありますから、そこで調べてもいい。ただ、すべての部位の羽が載っているわけではないので、ピタッと種類を当てるのはなかなか難しいです。

堀田 > 同じ鳥でも部位によって羽の色や形が違いますよね。

飯塚 > 大きく分けると、飛ぶためのシュツとしてかたい羽と、防寒のためのフワフワで柔らかい羽があります。飛ぶための羽は左右対称ではなく前側が狭くなっています。一枚一枚の羽だけでなく、翼全体も飛行機の翼と同じような形になっていて、揚力を生み出しやすくなっています。一方、フワフワとした羽の方は空気を包み込むため非常に

防寒性が高く、ダウンジャケットや羽毛布団として人間も利用していますね。ちなみに、ケワタガモという自分の羽毛を抜いて巣を作る鳥がいるんですけど、その使用済みの巢材を人間が自然の恵みとしていただいて、自分の服に入れて防寒に利用したのがダウンジャケットの始まりです。

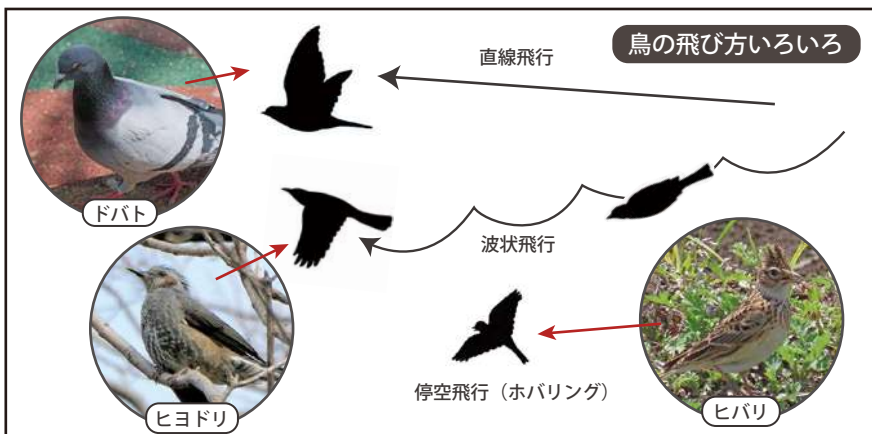
堀田 > 鳥の羽は顕微鏡で見るとまた違った色に見えますね。アオバトの緑の羽を顕微鏡で見たら、青と黄色からできているのが分かって感動しました。

飯塚 > 光の当て方で色が変わるんですね。また、色だけでなく模様も美しい。コゲラなんて色見は地味ですけど、模様は芸術品のようです。これは余談になりますが、鳥の羽というのはそれだけ美しいものなので、昔から人間は装飾品として利用してきたわけです。ところがある時イギリスの貴婦人が、「人間のおしゃれのためにわざわざ殺して持って来るのは良いことなのだろうか？。人間がもらうべきものではないのでは？」と世に訴えたんですね。それが世界の自然保護活動の始まりなんです。鳥の羽の美しさが乱獲など環境破壊を招いた一方で、鳥の羽がきっかけで自然保護活動が始まったんです。

### 飛び方もさまざま

堀田 > ヒバリが溺れた人のように、上空でバタバタと飛んでいるのを見るといつも笑ってしまうのですが、鳥によって飛び方も随分違いますよね。

飯塚 > ヒヨドリは波のように飛びますが、ハトやスズメなんかは一直線に飛びます。音も違って、ハトやカモなどはバサバサっと大きな音を立てますし、ツバメのように音がしない鳥もいます。





カワウ

カワウのV字飛行



ツグミ



ジョウビタキ

海外から渡ってくる身近な鳥たち



コガモ



ツバメ

堀田 > 先日、V字の隊列を組んで飛行している鳥がいたので、デジカメで撮影して拡大してみたらカワウでした。

飯塚 > V字で飛ぶと省力化できるんですよ。カワウは体が大きく、潜水にもたけている分、飛ぶのはやや苦手。なので、先頭の鳥が羽ばたくことによって生まれた気流を、後続がうまく利用して飛ぶんです。先頭は疲れるので時々後ろに回って交代します。ガンやハクチョウなど、飛ぶのに労力がいる大型の鳥類によく見られる飛び方ですね。

堀田 > 鳥の行く先といえば、目の前にいる鳥が実ははるばる海を越えて外国からやってきた鳥だったりするものも、何かロマンを感じますね。

飯塚 > このあたりの身近な鳥でいうと、ツグミやジョウビタキ、コガモは秋にロシアや中国など大陸の方から渡ってきます。3月下旬頃にあらわれるツバメは、東南アジアからやってきてるんですよ。到着したてのツバメを観察すると、もう疲れ切って羽がボロボロだったりするんです。

## 鳥の行く先に思いを馳せてみよう

飯塚 > 鳥は飛び方も様々ですが、「なんでそっちに飛んで行ったのだろう？」と想像してみるのも楽しいですよ。夕暮れ時にカラスが一定の方角へ飛んでいったら、それはねぐらへ帰るところなんです。カラスも人と同じく視覚に依存して生きてるので、暗くなったらお家に帰るんです。ちなみに、カラスは実はすごく神経質な鳥なので、そこら辺では眠らないんですよ。夜でも人が立ち入るような公園ではまず眠りませんね。

堀田 > いつだったか金目川沿いを車で走っていたら、種類は分からなかったんですけど、ものすごい数の鳥が河川敷のササが茂っている所にサァーっと入っていったんです。それもねぐらに帰る鳥だったんですかね？

飯塚 > そうだと思います。種類は、8月だったらツバメ、10月11月くらいだとムクドリの可能性ががありますね。ワーワーキャーキャー鳴き声がうるさかったらムクドリです。最近は駅前ビルの上とかに集結していることも多いですね。昔はお寺の林とかをねぐらにすることが多かったんですけど。



ムクドリ

ムクドリのねぐら入り  
写真提供：金子典芳氏

堀田 > ツバメの巣は巣から糞が落ちるので嫌がられることも多いですけど、縁起物でもあるんですよ。

飯塚 > 幸せを運ぶ鳥。昔から家にツバメの巣ができること縁起がいいと言われてきましたね。カラスが天敵なので、あえて人の出入りがある場所を選んで巣を作るんです。最近では、よりカラスが侵入しにくい場所に巣を作ることが多くなってきてます。なんとATMの建物の中に巣を作った例まであるんですよ。朝シャッターが上がると、自動ドアのセンサーの前で羽ばたいてドアを開けて中へ入るんです。小指の爪の先ほどの脳みそで、そこまでできるのかと感心しましたね。

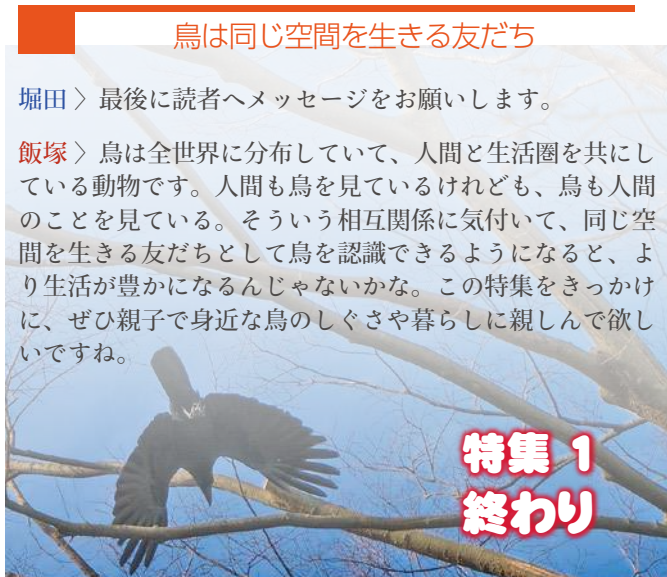
堀田 > 人間社会の変化へ巧みに対応しているんですね。

飯塚 > ええ。一方、冬に過ごすフィリピンやタイでは、高いヤシの木の上とか、人とは遠いところで暮らしてるんですよ。日本とは全然違う暮らし方をするんです。それもまた不思議なところですね。

## 鳥は同じ空間を生きる友だち

堀田 > 最後に読者へメッセージをお願いします。

飯塚 > 鳥は全世界に分布していて、人間と生活圏を共にしている動物です。人間も鳥を見ているけれども、鳥も人間のことを見ている。そういう相互関係に気付いて、同じ空間を生きる友だちとして鳥を認識できるようになると、より生活が豊かになるんじゃないかな。この特集をきっかけに、ぜひ親子で身近な鳥のしぐさや暮らしに親しんで欲しいですね。



特集1  
終わり

特集  
2

# 身近な野鳥のくらし

飯塚利一監修  
イラスト：富岡誠一

身近な鳥の暮らしを紹介します。  
みなさんの観察の一助になれば  
幸いです。(編集部)

## 小さな スピードスター ツバメ

体重は十円玉  
2～3枚分  
※十円玉1枚 4.5g

3月下旬に東南アジアから渡って来て日本で繁殖し、秋にはまた東南アジアへ渡っていきます。体はとても軽く、イチゴと同じくらいの重さで、非常に速く飛ぶことができます。

### 子育て

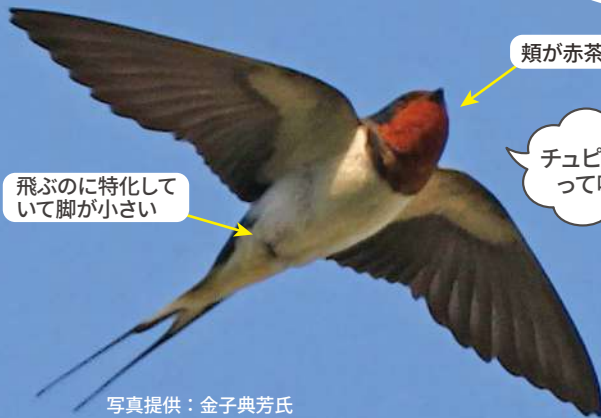
カラスが天敵なので、わざと商店街や民家など人の通る場所に巣を作ります。年2～3回繁殖。早く巣立ったツバメは親を真似て子育ての手伝いをするこも。全然別の個体が子育てに加わるこもあります。



巣材を集めるツバメ



こういう場面でしか地上に降りるこはない。



頬が赤茶

チュピチュピ  
って鳴くよ

飛ぶのに特化して  
いて脚が小さい

写真提供：金子典芳氏

### 生活の多くのこを飛びながら行うツバメ

水を飲むのこ



食べ物をとるのこ



## 付かず離れず 人と共に生きる野鳥

## スズメ

体重は十円玉  
約4～5枚分

一年中人のそばで暮らす鳥なので野鳥観察の入り口にピッタリ。人にはなつきませんが、人が住まなくなった地域からは離れていきます。野鳥ではあるけれども、人間と共生しているよう。そのためか、スズメは屋根や電線といった人工物によく止まります。

### 子育て

ビルの排気口や人家の屋根の隙間に巣を作ることが多く、一度に5～6個の卵を産みます。巣立った後、親鳥ほどの大きさに育つてもしばらく親鳥に餌をねだります。



東屋の屋根裏で営巣

チュンチュン！  
って鳴くよ

### くちばしの形にも意味があるよ

スズメ



ヒヨドリ



スズメなど穀物食主体の鳥は、植物の種を割って食べたりするので、ペンチのようなふっくらした形。

ヒヨドリのような花の蜜を吸い昆虫を食べる鳥は、小さな箸・ピンセットのような形です。

ミルクで  
子育て?!  
**キジバト**

体重は十円玉  
38～64枚くらい

切手(62円、80円)にも採用されるなど、日本人にとって親しみのある身近な鳥です。元々山のハトでしたが、駅のホームに巣を作るなど、都市化に適応している例も見られます。

**子育て** 主に樹上で営巣します。巣作りは雑で、卵が落ちてしまうこともあるほど目が粗い。一度に産む卵は2個。オス・メス共にピジョンミルク(食べた穀物を碎いてミルク状にしたもの)を与えて育てます。年間通じて繁殖するので、場合によっては真冬に子育てすることもあります。

鳴き声は  
デッデーポッポー  
デッデーポッポー  
だよ



ひな

写真提供：小澤瑞穂氏



首の縞模様と翼のうろこ模様が特徴です。群れを作らず、大抵1～2羽でいます。

**キジバトとドバトの違い**



公園で群れているのはドバト。飼われていた伝書鳩やレース鳩が野生化したものです。

とっても賢い  
いたずら者  
**カラスの仲間**

身近にみられるカラスには、「ハシトガラス」と「ハシボソガラス」の2種類があります。どちらも市街化した環境にも適応し、非常に賢いことで知られています。



写真提供：金子典芳氏

**ハシトガラス**

体重は十円玉  
116枚～244枚くらい

翼を広げると1m以上になる大きな鳥です。元々は森林性の鳥ですが、今では都市にも適応してどこでも見られます。ゴミ置き場でよく見るのはこちら。性格は、ハシボソガラスよりはやや乱暴で大胆不敵な印象。



**ハシボソガラス**

体重は十円玉  
89枚～155枚くらい

元々は農地や海岸など開けた場所にいた鳥ですが、今では市街地にも適応。ハシトガラスよりもやや小ぶり。性格は、ハシトガラスより思慮深く落ち着いた印象。

**両種の見分け方**

「ハシト」「ハシボソ」とはくちばしの太さのこと。カラスを見つけたら見分けてみよう!



ハシトガラス

ハシボソガラス

**子育て**

主に木の枝を使って巣を作ります。



針金のハンガーもよく使います

ハシボソガラスの巣作り



巣箱を作って  
呼んでみよう！

# シジュウカラ

体重は十円玉  
3〜4枚くらい

ツチペ、ツチペ  
って鳴くよ

白と黒のコントラストがはっきりとした、スズメくらいの大きさの鳥です。庭や公園などの樹上でよく見られます。木の穴などに巣を作るので、巣箱を設置すると利用してくれることもあります。

茅ヶ崎市・座間市・横浜市港南区では、シジュウカラが市（区）のシンボルとして制定されています。

## 子育て

2月3月に巣穴探しを始め、4月〜7月の間に2、3回繁殖します。いちどに7〜10個の卵を産みます。

動物の毛やコケなども巣材に



巣立ち雛

写真提供：新井泰江氏



写真提供：吉田文雄氏

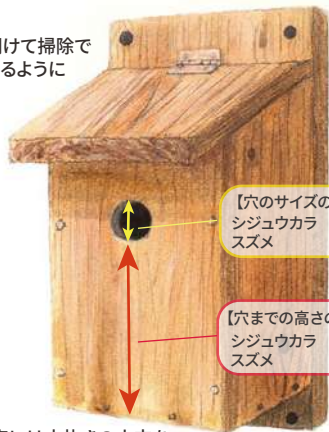
# 身近な鳥を 呼び込んで みよう！

ちょっとした工夫をすれば、鳥たちが集まる環境を作ることができます。庭先・ベランダなどに設置して、鳥たちの姿を身近で観察してみたいはいかがでしょうか。

## 巣箱

12月〜1月に設置し、春から夏にかけて利用してもらおう。中を掃除して日光消毒すれば、次のシーズンもまた使えるよ。（ハチが巣を作る場合もあるので開けるときは注意。）呼び込む鳥の種類によって、適したサイズがあるので調節して作ってみよう。

開けて掃除できるように



底には水抜き的小穴

【穴のサイズの目安】  
シジュウカラ 2.7 cm  
スズメ 3 cm

【穴までの高さの目安】  
シジュウカラ 15 cm  
スズメ 18 cm



前に枝などのない空間

やや下向きに

高さは2〜3m

例) 平岡幼稚園の巣箱

## エサ台

冬の餌が少ない時期に設置しよう。猫に襲われない場所であれば小皿でもいいですし、ペットボトルなどで作って細い枝先に吊るしておいても構いません。

餌はシジュウカラなら市販のヒマワリの種がよいです。ミカンや柿を枝に刺しておくと、ムクドリやヒヨドリが食べに来ます。



園内のエサ台にてシジュウカラ



トレーに入れるだけでもOK



枝などに吊るそう

エサを取り出す穴を開ける

割り箸を刺して足場に

ペットボトルのエサ台

## 水場

多くの鳥は大切な羽を掃除するために水浴びをします。雨の少ない時期にベランダなどに浅い水場を作って、小鳥たちを呼んでみよう。暑い日は、飲み水としても利用されます。



ウグイス



メジロ

深いと立てないので  
水は1cmくらいでOK

トレーを使った水場

写真を提供して下さった金子典芳氏、斎藤常實氏、吉田文雄氏、小澤瑞穂氏、新井康江氏と、鳥の羽の撮影に協力して下さった牧野田節子氏に感謝申し上げます。  
【参考文献】飯塚利一監修 ジュニア自然図鑑3『野鳥の観察』（実業之日本社）

※この図鑑は編集部で作成しています。誤りが判明した場合は速やかに訂正いたします。

※同定は、同定者名の記載のないものは編集部(堀田佳之介)が行い、わかる範囲内で性別や年齢を付記しました。同定者名の記載のあるものは、各専門家の先生に同定していただいた写真です。

創刊から累計で  
昆虫類568種  
その他181種  
になりました!  
※種名が判明したものに限る

# 湘南発 みんなでつくる! 生きものの図鑑





## 2021年3月~5月版 春

皆さんからの投稿写真を季節毎にまとめた、タイムリーな生きもの図鑑です。地域の生物情報の蓄積を図り、自然環境の保全に役立てたい、とのみんなの願いが詰まっています。

(対象地域:神奈川県)

アサヒナカワトンボ伊豆個体群♂  
小田原市久野にて(2021年5月上旬)

図鑑の見方 ①場所 ②年月 ③氏名 (危)危険な生き物 外来 外来種 期間外 2021年3月以前の写真

<p>昆虫網 トンボ目</p> <p>※現在普通に見られる</p> <p>県レッドデータブック2006 情報不足</p>  <p>ハグロトンボ幼虫</p> <p>①平塚市南金目 ②2021年4月下旬 ③山本侑樹・壮真</p>	<p>県レッドデータブック2006 情報不足</p> <p>※現在普通に見られる</p>  <p>ホソミイトンボ♂</p> <p>①平岡幼稚園 ②2021年5月中旬 ③神藤城太郎</p>	<p>県レッドデータブック2006 情報不足</p> <p>※現在普通に見られる</p>  <p>ホソミイトンボ♂</p> <p>①平塚市寺田縄 ②2021年5月下旬 ③石井律有</p>	<p>県レッドデータブック2006 情報不足</p> <p>※現在普通に見られる</p>  <p>ホソミイトンボ♂</p> <p>①平塚市寺田縄 ②2021年5月下旬 ③高橋瑛太</p>
<p>アオモンイトンボ♀</p> <p>①平塚市北金目 ②2021年5月下旬 ③高村耕太郎</p>	<p>ムカシトンボ♀</p> <p>①小田原市久野 ②2021年5月上旬 ③堀田来佳</p>	<p>クロスジギンヤンマ幼虫</p> <p>①平岡幼稚園 ②2021年3月上旬 ③奥田琴音</p>	<p>クロスジギンヤンマ幼虫</p> <p>①平岡幼稚園 ②2021年3月上旬 ③小宮悠太郎</p>
<p>クロスジギンヤンマ幼虫</p> <p>①平岡幼稚園 ②2021年3月上旬 ③藤井瑛人</p>	<p>コオニヤンマ幼虫</p> <p>①平塚市南金目 ②2021年4月下旬 ③山本侑樹・壮真</p>	<p>ミヤマサナエ幼虫</p> <p>①平塚市南金目 ②2021年5月中旬 ③山本侑樹・壮真</p>	<p>ミヤマサナエ羽化殻</p> <p>①平塚市北金目 ②2021年5月下旬 ③高村耕太郎</p>
<p>県レッドデータブック2006 要注意種</p> <p>ヤマサナエ羽化殻</p> <p>①平塚市南金目 ②2021年4月下旬 ③山本侑樹・壮真</p>	<p>進級注意種 県レッドデータブック2006</p> <p>コヤマトンボ幼虫</p> <p>①平塚市南金目 ②2021年5月中旬 ③山本侑樹・壮真</p>	<p>ショウジョウトンボ♀</p> <p>①平塚市寺田縄 ②2021年5月下旬 ③石井律有</p>	<p>期間外</p> <p>ショウジョウトンボ♀</p> <p>①平塚市南金目 ②2020年9月上旬 ③山本侑樹・壮真</p>



**シオカラトンボ未熟♂**  
①平塚市寺田縄 ②2021年5月下旬  
③大澤采空



**シオヤトンボ♂**  
①平塚市土屋 ②2021年4月中旬  
③荒井啓三



**シオヤトンボ♂**  
①平塚市土屋 ②2021年5月上旬  
③高村耕太郎



**オオシオカラトンボ未熟♂**  
①平岡幼稚園 ②2021年4月下旬  
③加藤熾太



**オオシオカラトンボ未熟♂**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月中旬  
③横田幸希



**オオシオカラトンボ羽化殻**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月中旬  
③飯嶋かなで



**オオシオカラトンボ羽化殻**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月中旬  
③佐藤帆高



**オオシオカラトンボ♂**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③小宮悠太郎



**オオシオカラトンボ♂**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③清水悠誠



**オオシオカラトンボ未熟♀**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③鈴木稔大



**オオシオカラトンボ羽化殻**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③茂田みづほ



**オオシオカラトンボ羽化殻**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③齋藤理人



**オオシオカラトンボ♂**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③深谷理二



**オオシオカラトンボ未熟♂**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③村田蒼志



**オオシオカラトンボ羽化殻**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③荒川帆夏



**オオシオカラトンボ羽化殻**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③平野未侑



**ヤブキリ幼虫**  
①平塚市北金目 ②2021年3月下旬  
③高村葵一



**ヤブキリ幼虫**  
①平塚市北金目 ②2021年4月上旬  
③清水悠誠



**ヤブキリ幼虫**  
①平塚市北金目 ②2021年4月上旬  
③野村悠陽



**ヤブキリ幼虫**  
①平塚市岡崎 ②2021年5月中旬  
③海老鞆頌寿



**クビキリギス**  
①秦野市羽根 ②2021年3月上旬  
③小松稜亮



**クビキリギス**  
①平塚市北金目 ②2021年4月上旬  
③野村悠陽



**クビキリギス♂**  
①平塚市中原 ②2021年5月中旬  
③石井律有



**ケラ**  
①平塚市南金目 ②2021年5月上旬  
③山本樹樹・壮真



県レッドデータブック2006  
要注目種

**ケラ**  
①平塚市真田 ②2021年5月上旬  
③小野真琴



**ツチイナゴ**  
①平塚市土屋 ②2021年4月上旬  
③堀田心結



**ツチイナゴ**  
①平塚市南金目 ②2021年4月中旬  
③山本侑樹・壮真



**ツチイナゴ**  
①平塚市上吉沢 ②2021年4月中旬  
③山本武翔



**ツチイナゴ**  
①平塚市出縄 ②2021年5月下旬  
③石井律有



**オオカマキリ卵鞘**  
①平塚市中堂 ②2021年3月下旬  
③山本武翔



**オオカマキリ幼虫**  
①平塚市北金目 ②2021年5月下旬  
③高村耕太郎



**ハラビロカマキリ脱皮**  
①平塚市高浜台 ②2021年4月上旬脱皮  
③石井律有 (卵鞘は2020年11月採集)



**カメムシ目**  
**アブラゼミ幼虫**  
①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③神崎慧偉



県レッドデータブック2006  
要注目種

**ハラゼミ羽化殻**  
①小田原市久野 ②2021年5月上旬  
③荒井浩明



**ミミズク**  
①大磯町大磯 ②2021年5月上旬  
③石井律有



県レッドデータブック2006  
絶滅危惧ⅠB類

**コオイムシ**  
①平塚市南金目 ②2021年5月下旬  
③山本侑樹・壮真

同定：岸一弘先生



**アメンボ (ナミアメンボ)**  
①平塚市河内 ②2021年5月下旬  
③石井律有



**ヨコヅナサンガメ**  
①伊勢原市西富岡 ②2021年5月上旬  
③佐藤帆高

危 外来



**ヨコヅナサンガメ**  
①平塚市岡崎 ②2021年5月上旬  
③山口心菜

危 外来



**アカサンガメ**  
①平塚市岡崎 ②2021年5月中旬  
③山口心菜



**ヒメジュウジナガカメムシ**  
①平塚市真田 ②2021年4月中旬  
③小松稜亮



**ホオズキカメムシ**  
①平塚市岡崎 ②2021年5月中旬  
③海老澤顕寿



**ホソハリカメムシ**  
①平塚市北金目 ②2021年4月上旬  
③野村悠陽

同定：岸一弘先生



**ホソハリカメムシ**  
①平塚市真田 ②2021年5月上旬  
③小松稜亮・望結

同定：岸一弘先生



**キバラヘリカメムシ**  
①平塚市岡崎 ②2021年5月下旬  
③海老澤顕寿



**マルカメムシ**  
①平塚市真田 ②2021年5月上旬  
③小松稜亮・望結



**コツチカメムシ**  
①平岡幼稚園 ②2021年4月下旬  
③笹尾隼風

拡大



**シラホシカメムシ**  
①小田原市久野 ②2021年3月下旬  
③樋口久美子

同定：岸一弘先生



外来  
キマダラカメムシ死体

①平塚市北金目 ②2021年4月上旬  
③清水悠誠・美結



外来  
キマダラカメムシ

①平塚市北金目 ②2021年5月上旬  
③山本侑樹・壮真



外来  
キマダラカメムシ

①平塚市西真土 ②2021年5月上旬  
③石井律有



ツヤアオカメムシ

①平塚市中原 ②2021年5月中旬  
③石井律有



ミヤマメダカゴミムシ

①相模原市緑区千木良  
②2021年5月下旬 ③堀田来佳



ヒメマイマイカブリ

①秦野市羽根 ②2021年3月下旬  
③小松稜亮



セアカヒラタゴミムシ

①平岡幼稚園 ②2021年5月上旬  
③大森比馬



ヒメゲンコロウ

①平岡幼稚園 ②2021年3月上旬  
③松浦優佳



コクワガタ♀

①平塚市南金目 ②2021年5月下旬  
③後藤基



コクワガタ♂

①平塚市北金目 ②2021年5月下旬  
③高村耕太郎



ノギリクワガタ♂

①平塚市南金目 ②2021年5月下旬  
③後藤基



ノギリクワガタ♀

①平塚市北金目 ②2021年5月下旬  
③高村耕太郎



クロコガネ

①平岡幼稚園 ②2021年5月下旬  
③後藤基



カフトムシ♂

①平塚市土屋 ②2021年5月上旬  
③石黒佳奈子



カフトムシ幼虫

①大磯町大磯 ②2021年5月上旬  
③石井律有



コアオハナムグリ

①平塚市寺田縄 ②2021年5月下旬  
③府川瑞季



カメノコテントウ

①山北町大野山 ②2021年5月上旬  
③後藤柚香



ハラグロオオテントウ

①平塚市岡崎 ②2021年5月上旬  
③堀田心結



ハラグロオオテントウ幼虫

①平塚市北金目 ②2021年5月下旬  
③清水悠誠



シロジウシホシテントウ

①秦野市羽根 ②2021年3月上旬  
③小松稜亮



シロジウシホシテントウ

①平岡幼稚園 ②2021年3月下旬  
③松澤遙



ナナホシテントウ

①平岡幼稚園 ②2021年3月上旬  
③小松稜亮



ナナホシテントウ幼虫

①秦野市羽根 ②2021年3月上旬  
③小松稜亮



ナナホシテントウ

①平岡幼稚園 ②2021年3月上旬  
③元野愛菜